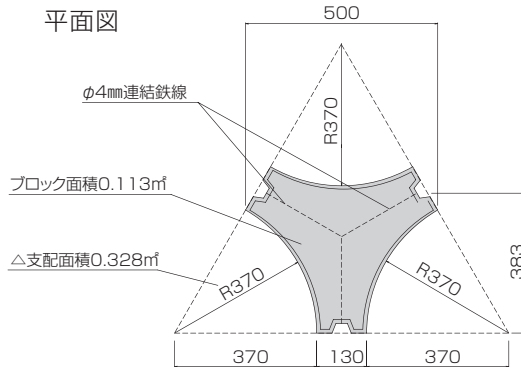


法枠ブロック・スリーホーン

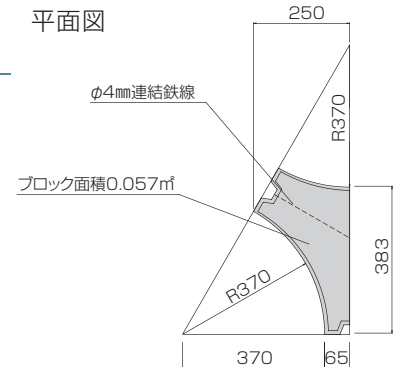
《スリーホーンブロック》

《スリーホーン半型ブロック》

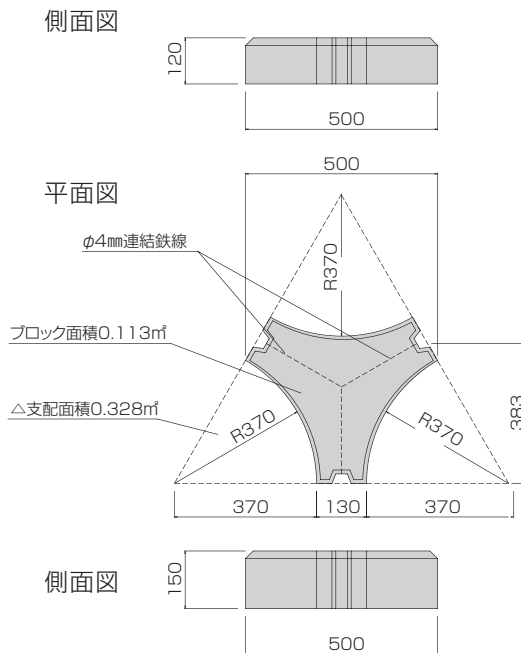
◆ 寸法図
12cm型
12cm基本



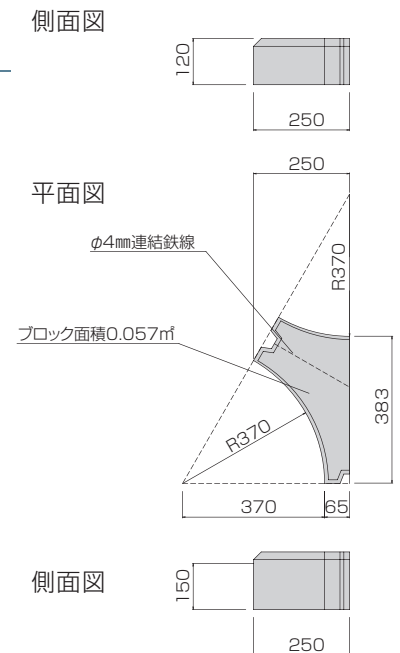
12cm型
12cm½



◆ 寸法図
15cm型
15cm基本



15cm型
15cm½



◆ 規格

形式	表示寸法 縦×横×高	体積 (m³)		重量 (kg)		1m²当り 標準個数	備考
		1個	1m²	1個	1m²		
12cm	38.3×50×12	0.0130	0.0390	30	90	3	
12cm型 (半型)	38.3×25×12	0.0065	0.0195	15	45	—	左右半切り注意
15cm	38.3×50×15	0.0164	0.0492	37.5	112.5	3	
15cm型 (半型)	38.3×25×15	0.0082	0.0246	18.7	56.1	—	左右半切り注意
ブロック支配面積	0.435×0.435×√3=0.328m²			ブロックの連結部面積		(0.05+0.03) / 2×0.025×3=0.003m²	
ブロックm²当り個数	1÷0.328=3.04≒3個			ブロックの実面積		0.113-0.003=0.11m²	
ブロックの基本面積	0.328 - (0.37²π×1/2) = 0.113m²						

◆ 歩掛表 (標準工法)

						100m²当り
名称	規格	数量	単位	適用		
12cm型	ブロック	0.383×0.5×0.12	304	個		
	間詰モルタル	(0.05+0.03) / 2×0.05×0.11	0.100	m³		
	作業員	法枠組立工	5.0	人	連結、間詰モルタル一式	
	円形内芝張	100-304×0.113	65.65	m²		
	普通作業員		8.0	人	円形内容土充填及び芝張共	
15cm型	ブロック	0.383×0.5×0.15	304	個		
	間詰モルタル	(0.05+0.03) / 2×0.05×0.14	0.128	m³		
	作業員	法枠組立工	5.5	人	連結、間詰モルタル一式	
	普通作業員		9.0	人	円形内容土充填及び芝張共	

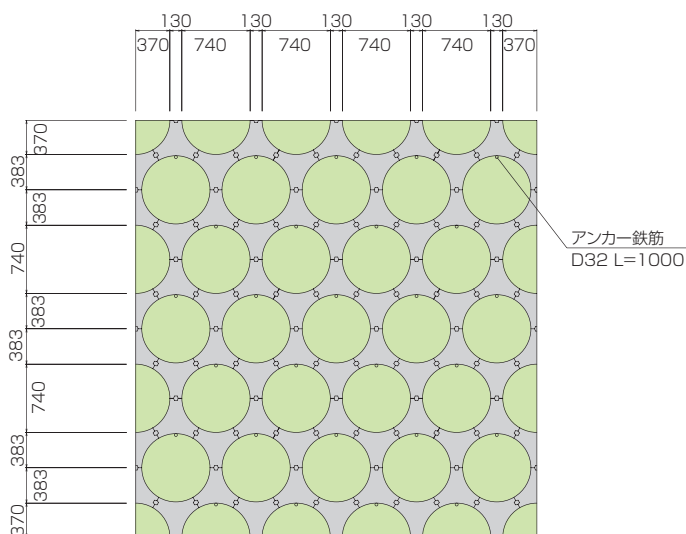
注) 客土量は65.65m²×0.9, 0.12, 0.15 (厚さ) = 5.9m³, 7.88m³, 9.85m³ コンクリート打設の場合 (65.65m²×厚さ) m³, 並びに表面仕上含み0.05人/m²計上)

◆スリーホン法長計算式

配列	記号	計算式	
A配列	A1	$ℓ=0.435 \times n + 0.250$	半型1個使用の場合
	A2	$ℓ=0.435 \times (n+1)$	半型2個使用の場合
B配列	B1	$ℓ=0.753 \times n / 2$	偶数の場合
	B2	$0.753 \times (n-1) / 2 + 0.433$	奇数の場合
C配列	C1	$ℓ=0.435 \times (n-1) + 0.500$	半型不使用の場合

ℓ：法長 n：個数

◆寸法・重量表



法長計算方法(例)

●A配列(半型2個使用)……A2

$$ℓ = 0.435 (n+1) = 0.435 (9+1) = 4.350\text{m}$$

$$L = ℓ + 0.01 (n+1) = 4.350 + 0.01 (9+1) = 4.450\text{m}$$

●B配列(偶数の場合)……B1

$$ℓ = 0.753 \times n / 2 = 0.753 \times 8 / 2 = 3.012$$

$$L = ℓ - 0.01 (n-1) = 3.012 + 0.01 (8-1) = 3.082\text{m}$$

●C配列

$$ℓ = 0.435 (n-1) + 0.50$$

$$= 0.435 \times (9-1) + 0.50 = 3.98$$

$$L = ℓ + 0.01 (n-1) = 3.98 + 0.01 (9-1) = 4.06\text{m}$$

スリーホン使用数量(A・B配列の場合)

●半型ブロック数

$$N = \frac{\text{右辺法長} + \text{左辺法長}}{0.753} = \frac{3.012 + 3.012}{0.753} = 8\text{個}$$

●スリーホンブロック数

$$N = \frac{\text{A配列数} \times \text{B配列数}}{2} = \frac{9 \times 8}{2} = 36\text{個}$$

(注) A・C配列は施工長方向、B配列は法長方向に配列の事。又B配列の場合奇数割にすると現場打個所が大きいのので出来るだけ偶数割にする事。目地の寸法は適宜に決める事。(0~5mm程度)

スリーホンブロックの特長と用途

- ① 傾斜地・道路・河川護岸法面保護工事に運搬・施工が容易なため最適です。
- ② 円部を形成しつつ鉄筋にて連結されたブロック群は、強固なる枠工を造形する事が出来ます。
- ③ 形成された円部は必要に応じ、コンクリート・芝・玉石を自由に選択、美観的に施工することが出来ます。